

# 水田雑草防除アプリ普及

## 最適薬剤 など提案 新モデル早期に

### バイエルクロップ

バイエルクロップサイエンス(東京都千代田区)は、大規模農家が抱える課題をデジタル農業で解決する。2024年から全国約400カ所ですトラアル導入中の「水田雑草テラーメイド防除」



小原 マネジャー

日本では農家の戸数減少が深刻化している。10年に116万戸あった水稲農家が20年には71万戸にまで減少したとされており、「われわれは水稲の部分で多くの仕事をしているが、この数字は衝撃的だ」(小原一記水稲除



「my 防除」の画面

移殖栽培に対応していた

は、デジタル技術によりほ場に合った除草剤の有効成分を適切な量・タイミングで散布し、防除効果を最大化できる。労働力不足や技能継承といった課題を解消するほか、環境負荷低減にもつながる。機能および処方を充実させた「2025年バージョン」を早期に構築・市場投入することで本格的な普及を図る。

草剤&デジタルインシアティブマネジャー)という。その一方で、農地はそれほど減っておらず、むしろ大規模化が進行中だ。より少ない人員でより多くの農地を扱わねば

ならず、従来以上に作業の効率化や円滑な技能継承が必要になっている。同社は日本の水稲農家が抱える大規模化、集約化、経営効率化、労働力の確保といった課題を解

決するため、デジタルン

が、新モデルではじかまき栽培にも対応させる。大規模農家は移植とじかまきを組み合わせることが多いという。

水田雑草テラーメイド防除の使い方は簡単

が、新モデルではじかまき栽培にも対応させる。大規模農家は移植とじかまきを組み合わせることが多いという。

た。水田にはさまざまな種類の雑草が発生し、その密度はほ場ごとに異なるものの、利便性の高い「一発処理剤」が使用されてきた。一方で、そのほ場でほとんど発生しない草種に対して有効な成分が余計に投入されていたり、ある草種にとっては適期防除ができず結果的に追加防除が必要になったりと、必ずしもそのほ場にとって最適な防除とはいえなかった。デジタル農業により農薬使用量の最適化を実現することで、農家の収益性ならびに持続可能性を高められる。

で、ウェブアプリの「my 防除」から所在地、雑草種・密度、条件などを入力すると、最適な薬剤の組み合わせ・薬量・散布時期が提案される。同社は2回に分けた処方方を推奨するが、コスト重視のユーザーも考慮し、一発処理も選べる。効果や回数など複数の選択肢を用意し、幅広いニーズに応える。

ウオーターセル(新潟市中央区)のほ場管理ソフトウェア・アプリ「アグリノート」と連携でき、同アプリの地図機能とmy防除の処方データを組み合わせることで、より

効率的かつ効果的な農薬散布が可能になる。データを蓄積することで毎年、精度を高められる。バイエルクロップサイエンスは中国・XAGのドローンを取り扱っており、処方からほ場管理、自動散布までのワンストップソリューションを提供できる。

「とくに大規模農家に向いている(同)。農業法人では非農家出身の従業員も多く抱える。属人的なスキルに依存せず、デジタル技術を通すことで技術の均質化を図れる。従来、水田の雑草を防除する手法は画一的だった。水田にはさまざまな種類の雑草が発生し、その密度はほ場ごとに異なるものの、利便性の高い「一発処理剤」が使用されてきた。一方で、そのほ場でほとんど発生しない草種に対して有効な成分が余計に投入されていたり、ある草種にとっては適期防除ができず結果的に追加防除が必要になったりと、必ずしもそのほ場にとって最適な防除とはいえなかった。デジタル農業により農薬使用量の最適化を実現することで、農家の収益性ならびに持続可能性を高められる。